



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行・編集 責任者：

般若慎一郎

～金屋町で総務副大臣車座トーク～

10月27日、首題のトークイベントが金屋町のフリースペース大寺ハウスで奥野信亮副大臣を迎えて開催され、地元で伝統産業やまちづくりに携わる10人が地方創生について意見交換しましたが、金屋町元気プロジェクトの加藤理事長・大寺幸八郎商店の大寺康太さんも参加しました。

「車座ふるさとトーク」は安倍内閣において、大臣、副大臣、政務官が地域に赴き、テーマを決めて、現場の少人数と車座の対話を行い、生の声をつぶさに聞いて政策にいかすとともに、重要政策について説明するという趣旨で全国で開催しているものです。



高岡の伝統芸能～やがえふも出演 ニッポンたからものプロジェクト

す。

テレビタレントのセイン・カミュさんが進行役をし、講談、長唄、日本舞踊、トークなどで構成され、一流のプロ達と共に国宝を舞台に演じたやがえふ踊りは、とってもピカピカに輝いていましたよ。



プロと一緒に記念写真

10月15日 国宝瑞龍寺の法堂において首題の公演が開催され、金屋町から弥栄節保存会のメンバーが出演しました。これは2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、国内外の人々が日本の多彩で豊かな文化を再発見する機会を充実するための取組として、文化庁が主催し「日本遺産」と日本の伝統芸能などを掛け合わせたトークと実演を新たな切り口で紹介し、これまで気づかなかった魅力を親しみやすく発信しようというもので、今年度は京都など全国5箇所で開催している中の高岡公演で

恒例のふいご祭

有磯正八幡宮で11月8日、高岡銅器の発展を祈願する「ふいご祭 鑄造式」があり、鑄物師が、御祭神で鑄物師の祖神「石凝姥神（いしごりどめのかみ）」

に鑄造の技を奉納した。今回は大小の勾玉

（まがたま）を鑄造し、来年の祭りで奉納する予定です。



かわせみを手にする登坂選手の父修さん

す。

今回は特に、奉納された置物「御神鳥かわせみ」が、二〇一六年リオデジャネイロ五輪レスリング女子48キロ級金メダリストの登坂絵莉選手に贈られた。五輪二連覇を願って、金箔（きんぱく）が施されており、この日の神事に参列した父修さん（53）が受け取りました。

登坂選手はリオ五輪前の正月に同神社を参拝して「リオ金 登坂絵莉」と書いた絵馬を奉納し、金メダルの願いがかなった神社として話題になったことの縁から、今回、置物を贈ることにしたそうです。

なお、今年の講元は金屋町自治会長の嶋田さんが勤めました。

金屋町ガイドマニュアル 意見交換会



10月10日、金屋町公民館において首題の会合が行なわれました。10月号で紹介した金屋町ガイドマニュアルを市内の観光ボランティア団体に配布しましたが、そのボランティアの人達に集まってもらい、外部の目で感じたこと、改善が必要な点などを聞かせていただく会合です。

会合には「あいの風～高岡全体をガイド」「やまたちばな～古城公園から大仏あたりをガイド」「保与の会～瑞龍寺をガイド」「比奈の会～勝興寺から伏木地区をガイド」の4団体と高岡市観光協会に来ていただき、金屋町の「まちなみを考える藤グループ」「金屋町元気プロジェクト」を加えた約30名が意見交換しまし

た。

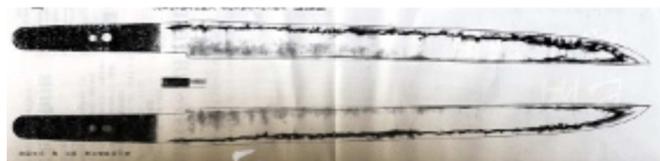
「金屋町の人には常識でも部外者には読めない漢字が少なからずあり、振り仮名をつけて欲しい」「金屋町のマップを掲載して、観光スポットの場所が視覚で分かりやすくして欲しい」など、今後反映すべき貴重な意見を多数聞かせていただきました。

来年は観光ボランティアガイド 北陸大会in高岡

ちなみに「観光ボランティアガイド北陸大会」というイベントが来年に高岡市で開催される予定であり、その企画運営に結束して当たるために、前記5団体に「さくらの会～福岡町」を加えた6団体で「高岡市観光ボランティアガイド連絡協議会」が10月9日に設立されたそうで、今後この6団体の相互交流が急速に深まるものと見込まれます。

越中福岡の刀匠 宇多派の世界

高岡市福岡歴史民族資料館の企画展「越中福岡の刀匠～宇多派の世界」を見てきました。宇多派の祖 宇多国光が、大和国（奈良県）宇陀郡から現在の福岡町三日市へ南北朝の時代（1317年頃）に移り住み、刀匠集団をなして江戸時代まで続き、戦国時代を経て多くの名刀を生み出したのだそうです。



展示会場には、重要刀剣・特別貴重刀剣など、太刀・脇差・短刀・槍など合わせて22点が展示されていました。入館料100円、12月3日まで開催されています。

10月の金屋町自治会拡大会議は休会しました